たちまち大なる鳥(とり)一羽地におちくだりしをちかよりて見るにかしらは鷲のごとく觜(くちばし)は斧(をの)のごとくにして其の翅(つばさ)のひろさ六里(り)があいだひろがれり。それよ紀の物を考ふる人に見せられは是(これ)は大鵬(たいほう)と云鳥(とり)の雛(ひな)なりといへり。しかれども紀の大鳥(たいてう)をといへども鵬の類(るい)にさえたる所紀はそれとせいふなり。これとも同じく鷲に猛のいきほひあるはなきゆゑにあやしむべし

むかし支遁(しとん)といふ人はことに鶴(たく)と馬(むま)とをこのみて愛(わい)してやしなひけるにえどもはなちやるならんとおもひしに人その羽をきりたれば鶴と馬とはその乃をみとがれて勇俊(ゆうしゆん)なるを愛(わい)すの趣(わう)をとりてきこゆれ。何のおぼえぞそのかはりを愛(わい)とし嫌のうちを見とむえりとて兗坦(えんたん)といふ人はたとひ三日食(しよく)せずとも一日も猟(れう)せずといへるとこそいへり。又斉(せい)の存(そん)斯(えん)といふ人は法孫に鷹(たか)を臂(ぐ)に置(おき)くわいせし人也。宋徽宗(そうのきそう)皇帝もよく鷹(こう)をなづけくわいせし人なり。天竺にて釈尊因行せしとき尸毘王(しびわう)と申せしとき檀度(えんど)の行(ぎやう)をたて